

※ 解答は、《解答欄》に書きなさい。

### ポイント

- ・言葉に着目し、想像の世界を広げる。
- ・読み手に効果的に伝わる表現を工夫する。

一 正岡子規が「狸」を取り上げた句を多く作っていることに興味をもった上野さんたちは、次の俳句から想像したことを基にして、それぞれが物語を作りました。

### 春雨や檻に寝たる大狸

正岡子規

### 【物語Ⅰ】

狭い檻に入れられた大狸は、春雨の音を聞きながら、遠い昔のことを夢に見ていた。

一匹の子狸が野原を駆け回っている。自分の背丈よりも高い草花の間を、一心に駆け回っている。その視線の先には、楽しげに舞う一匹の白い蝶がいた。

蝶が背の高い花に止まると、子狸も足を止め、草むらに身をかがめた。まだ幼い子狸がいくらジャンプしたとしても、蝶はおるか茎の先端に近づくことさえできない。それでも子狸は、①まるでそれが自分の使命であるかのように、②（ ）蝶に飛びかかろうとしている。

はさつ、どすん。二つの音が立て続けに響いた。③その瞬間、蝶は空に向かって静かに舞い上がった。自分を目がけて飛びかかってきた子狸など知らぬ顔で。仰向けになった子狸の目には、青く澄んだ空が映っていた。

### 【物語Ⅱ】

ここは大狸が生まれ育った森からずいぶん離れた小さな町の動物園。昼間は、近所の子どもたちがたたくさんつめかけ、大狸の動きに歓声をあげる。

大狸がここに来たのは五年前のことだ。最初は、檻の中での生活が我慢ならず、見物人の存在など気に留めることなく、朝から晩までずっと動き回っていた。けれども、今ではここが気に入り、せわしく動き回ることもなくなった。この間は、小高く積まれた土の斜面を自分で掘り、一人つきりになれる穴をつくった。

本当は、昼間より夜の方が得意だから、太陽が昇っている間は、ずっと穴の中にくつろいでいたい。でも、そうしてばかりはいられない。喜んでくれる子どもたちのために、昼間は穴の外に出て、エサを食べたり、軽く走ったりするようにしている。

今はまだ開園前。大好きな穴の中に居られる。春雨の音を聞きながら、子どもたちの声が聞こえてくるまでもう少しまどろんでいようと、大狸は、小さくあくびをした。

【三ページ】

1 — 線部①、③で用いられている表現技法としてふさわしいものを、次のアからオまでの中から一つずつ選び、その記号を書きなさい。

ア 体言止め    イ 倒置法    ウ 対句法    エ 比喩法    オ 反復法

2 — 線部②（                      ）に入る言葉としてふさわしいものを、次のアからエまでの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 息を殺して    イ ほぞをかんで    ウ じだんだを踏んで    エ 肩をすくめて

二 次は、【物語Ⅰ】、【物語Ⅱ】について上野さんたちが話し合った内容の一部です。

【話し合いの一部】

秋本さん    【物語Ⅰ】では、檻の中にいることについて大狸がどのように思っているのか直接書かれていません。しかし、大狸の気持ちを推測することができる表現があります。例えば、冒頭の「狭い檻に入れられた」からは、大狸が檻の中にいることに対して満足していないということが感じ取れます。

一方、【物語Ⅱ】では、大狸の気持ちが直接表されています。檻に入れられたばかりの頃の気持ちは「①」という言葉で、今の気持ちは「②」という言葉で表現されています。

星川さん    確かにそうですね。檻の中で寝ている大狸の姿や気持ちに目が向くのは当然ですが、僕は、俳句を基にして物語を作るのだから、まずは③に注目すべきだと思います。

上野さん    それは、具体的にはどのようなことですか。

星川さん    この俳句の③は、「春雨」です。どちらも「春雨の音を聞きながら」という表現が使われていますが、これだけでは足りないと思います。春雨がどのようなものなのか、④雨粒の大きさや降り方はどうなのかということが伝わる表現にすると、檻の中で寝ている大狸の様子や気持ちをもっと伝わりやすくなると思いました。

（※話し合いが続く。）

1 【話し合いの一部】の①、②に入る言葉として適切なものを、①は五字、②は七字で、それぞれ【物語Ⅱ】から抜き出して書きなさい。

2 【話し合いの一部】の③に入る言葉を漢字二字で書きなさい。

3 【話し合いの一部】の—線部④「雨粒の大きさや降り方はどうなのか」という意見を受けて、【物語Ⅱ】の「春雨の音を聞きながら」の部分を書き直します。次の短歌と解説文からイメージを広げ、解答欄の（                      ）に入る言葉を書きなさい。

短歌 くれなみの二尺のびたるばらの芽の針やばらかに春雨の降る    正岡子規

解説文 二尺（約六十㎝）ほど伸びた紅色の薔薇の新芽の針（とげ）は、まだいかにも柔らかな感じであり、そこにしつとりと静かに春雨が降っている。

シート 9 解答欄

第 学年 組 番 氏名

1 ①  ③

2

二

1 A

B

2

3 ( ) 雨が ( ) 降る音を聞きながら

## シート 9 正答例

一

1 ① エ ③ イ

2 ア

二

1 A 我慢ならず

B ニニが気に入り

2 季語

3 (例) 細かな、小さな、小粒の(雨が)

静かに、しとしと、柔らかに(降る音を聞きながら)